

はりきっています。図書委員会

新年度が始まり、図書委員会のメンバーも変わりました。ほとんどの子が初めての図書委員会です。図書委員長さんが「本の魅力をみんなに伝えたい。」という言葉に胸に、ひとり一人が、とてもよく働いています。みんなが、楽しく本が読めるように、図書委員会9人と力を合わせて、がんばります。よろしくお願いします。



図書館のオリエンテーションをしました。

4月には、1年生から6年生まで1時間ずつ、図書館の利用の仕方やしぐみについて学習しました。子ども達の目は輝き、一つ学年が上がったことで、ひとまわり自信にみなぎるエネルギーを感じました。



1年生の様子です。ねずみのぐりとぐらと3つの図書館の約束をしました。おもしろく、立ち上がり喜ぶ1年生です。

4年生は、本のラベルから、本のないようを調べています。



5年生は、図書館の本棚から分類に注意しながら、本を探しています。



すいせん図書にも挑戦

学年ごとに、15冊から20冊の本を選定しています。その年頃に出会ってほしい本です。低学年は、読み聞かせにも適していて、物語を中心に選んでいます。中学年は、ジャンルの幅を広げ、ひとりでも楽しめ余韻が残り、考えるきっかけになる本です。高学年は、社会や世界に視野を広げ、自問自答を促す本です。どの学年も少し背伸びをしないと読めない本もあると思います。さまざまな本に触れてみるという体験ができるのではないかと思います。がんばるぞ、明德っ子！



あたらしいほん

十二支えほん

谷山彩子・著

十二支って、動物の競争のお話じゃないんだ。『十二支』って、12で一回りする数え方のことなんだって。

おとのさま、小学校に行く

中川ひろたか・著

小学校にいったことがない、おとのさまは、1にちだけ、しょうがつこうに行くことになりました。

魔女のいじわるラムネ

草野あきこ・著

トモヤは、ワタルくんにいじわるをされて、もやもやしていました。そんなとき、まじょから「いじわるラムネ」のもとをもらいます。

ちょきんばこのたびやすみ

村上しいこ・著

ぼくのちょきんばこが、おなかにはいっているお金で、日本一周をしたいとお願いした。

うんちの正体

坂元志歩・著

うんちの三分の一は、菌^{きん}でできています。この菌が人類を救うかもしれませぬ。へそのゴマの菌からはじめる、目に見えない世界へ。

生きものつかまえたらどうする？

秋山幸也・著

みなさんの家のまわりにいる生きものをみつけたら、どうしたらいいのでしょうか。生きものつかまえ方、かい方がよくわかります。

イヌ カウ コドモ

金森美智子・著

もし、家でイヌをかうことになるのなら、この本を読んでみよう。イヌとくらすには、人間とイヌのルールがたいせつになります。

おもしろ大発見世界スゴすぎ事典

須藤健一・著

世界には、すごいと思う、習慣や文化があります。こんなこともあるのだと、おどろきます！

珍獣ドクターのドタバタ診察日記

田向健一・著

獣医師の田向先生は、どんな動物も診察します。生き物を飼うということは、どういうことなのか。命の終わりを考えるからこそ、今、何ができるのかを考えてみようといひかけます。

ブラックホールの飼い方

ミシェル・クエヴァス・著

科学が好きな少女テスラは、ある日、目の奥に小さな銀河が光る黒い物体を見つける。それは、なんでものみこんでしまうブラックホール。テスラは、ブラックホールを飼うことができるのでしょうか。父親を亡くした悲しみを乗り越えようとする少女のおはなし。